



## 概要

生坂村は、過疎化・少子高齢化が急速に進む人口2100人の村で、犀川による分断と、集落間の標高差が大きいのが特徴である。村の交通施策は、JR明科駅を結ぶ幹線系の路線バスと村内の巡回バスの2種類村営バスがあるが、この数年、利用者数が著しく減少しており、財政を圧迫していた。これらを受けて、車両の小型化、ダイヤの効率化による幹線バスの再構築に加え、周回バスへのデマンド方式の導入を行うことを柱にした総合連携計画の策定を行い、事業に取り組むものである。

### ①村営バス犀川線の再構築実証運行【実施主体;法定協】

- ・地域の南北軸を形成する幹線バス犀川線を再構築する。
- ・車両サイズの小型化や、日中に運行便の効率化、域内周回系路線との接続なども強化。コストを抑えながらも、十分な利便性を確保。
- ・運賃についても、200円、300円、400円の3区分の明瞭な体系とする。

### ②周回バスへのデマンド運行方式の導入実証運行【実施主体;法定協】

- ・これまでカバーできていなかった、傾斜地集落等を新たにカバー。
- ・利用者の居住地区に併せ、柔軟に運行ルート进行调整するセミデマンド運行を実施。
- ・とくに、初年度はITシステムを導入せず、手作業にて予約・配車を実施。
- ・幹線バス犀川線、池田町営バスとの接続性を重視し、乗継ぎ地点への到着時間を守って運行。

### ○評価・検証事業【実施主体;法定協】

- 利用状況調査  
⇒利用実績および利用者ニーズを把握。
- 実証運行の評価・検証  
⇒設定した計画目標への到達状況などを検証。実証運行における問題・課題を抽出。
- 事業内容の改善提案  
⇒次年度の変更点、システム導入の可否などについて提案。

### ▼協議会の模様(5回開催)



### ▼手作業による予約イメージ

◆予約の流れ



利用者



予約センター

- ①利用する便を決めます
- ②予約電話を掛けます
- ③予約内容を伝えます

30分前: 〆切

利用者全員分の  
予約を調整

- ④送迎時刻確定の電話が掛かります

- ⑤乗り場で待ちます

5分前: 待機

- ⑥車が迎えに来ます

乗車

### ▼導入した新型車両



### ▼新システムのマスコット (いくりん)

